

2012 年度報告書（研究員）

氏 名	細谷 葵
職 位	グローバル COE 研究員
<p>研究概要</p> <p>今年度は、細谷が研究代表者として新しく採択された科学研究費補助金・基盤 C 「貯蔵」と「加工」から見る東アジア農耕導入期の野生植物食料利用の実態とその変遷」（課題番号 24520876）の初年度であったため、その準備研究を主な活動とした。まず、自分がこれまで行ってきた「東アジア新石器時代の貯蔵と加工」に関する研究の総括として、国際学会「The 5th Worldwide Conference of the Society for East Asian Archaeology」における研究発表や、岡内三眞(編)『技術と交流の考古学』（2013 年、同成社）掲載論文の執筆などを行った。また、新たな科研費による調査研究の準備のために、東北地方の縄文時代遺跡の視察（二回）、英国ロンドン大学研究者との情報交換を実施したほか、グローバル COE の業務として 3 週間出張した韓国・ソウルにおいても、韓国の伝統的食文化に関する調査や、ソウル国立大学研究者との情報交換を行った。</p> <p>加えて、前職であった総合地球環境学研究所で参加していた、新疆ウイグル自治区における考古学調査の総括・成果発表に携わり、英国「International Dunhuang Project International Conference: Archaeology of the Southern Taklamakan: Hedin and Stein's Legacy and New Explorations」学会における研究発表や、佐藤・谷口(編)『イエローベルトの環境史—サヘルからタクラマカンへ』（2013 年、同成社）掲載論文の執筆を行った。</p>	
<p>業績リスト（著書、論文、報告、その他に分けて主要なものを記入する）</p> <p>【著書（分担執筆）】</p> <p>2013 年 3 月 細谷 葵 第 3 章「砂漠にさまよう舟—小河墓遺跡を残した人々の栄枯盛衰」、佐藤洋一郎・谷口真人(編)『イエローベルトの環境史—サヘルからタクラマカンへ』、弘文堂</p> <p>【論文】</p> <p>2013 年 1 月 細谷 葵 「東アジア先史時代の食用植物加工技術—アンズ・モモ種子の毒抜き技術に関する試験的実験研究—」。岡内三眞(編)『技術と交流の考古学』、同成社</p> <p>【報告】</p> <p>2012 年 6 月 Hosoya, L.A. “Reconstructing Routine: Methodology and problems in comprehending archaeobotanical and artefactual information”, The 5th Worldwide Conference of the Society for East Asian Archaeology, Kyushu University, Fukuoka</p>	

2012 年 6 月 Hosoya, L.A. “Pottery, Foodways and Social Valuing of Food Plants”, The 5th Worldwide Conference of the Society for East Asian Archaeology, Kyushu University, Fukuoka

2012 年 11 月 Hosoya, L.A. “Rise and Fall of Arid Area Life: A case study of Xiaohe Tomb site (1,600-1,000BC), Xinjiang”, International Dunhuang Project International Conference: Archaeology of the Southern Taklamakan: Hedin and Stein’s Legacy and New Explorations, British Library, London, UK